

これからの文化の家とフレンズ

広中省子さん × 水野美々子さん
文化の家館長 × フレンズ会長

新しい企画を一緒に作りましょう
まずは一歩ずつ



新館長誕生から一年近く経ちました。フレンズとの連携を今後どのように進めていくのか、課題や希望など、熱く語り合っていました。

文化の家にはフレンズがある

水野 さっそくですが、新館長になられていかがですか。

広中 最初はいろいろ戸惑いでしたが、今は、お役所ならではのシステムにも慣れました。

水野 普段、館長室にはいらっしやらないんですか？

広中 ここにいたらみんなが何をしているか全然わからないので、下(一階の事務室)にいます。また、フットワークを軽くして、いろいろな人と出会うことが大切なので、ここにももって来てはダメだと思っただけです。

水野 館長になられてから、フレンズの活動の見方は変わりましたか？

広中 すこいなと思ったのはホルボランティアに関してです。目に見えない努力を20年重ねてこられたので、接遇などに高い質が保たれているんですね。細やかな声掛けなどがあり、とても柔らかか

くて温かい雰囲気を感じます。
水野 ありがとうございます。「文化の家にはフレンズがある」と言われるような、そんな活動をしていきたいと、いつも思っています。



水野 ところでフレンズの会員ですが、企画によって会員の数がすこく変わりますね。フレンズの企画じゃなくて、文化の家の企画のことですが…。

広中 ここは特に「芸術のまちアイデンティティの確立」というのが、開館以来「文化芸術マスタープラン」できちっとつたわれているので、ある意味「どこでも観られるものはやらない、名古屋に行くと観られるものなら、そちらに行つて下さい」というふうでやってきたんです、脈々と、私の前から。

皆さんが文化の家に足を運んでくれる企画を

水野 それもありフレンズは文化の家が企画しないようなものをと考えながら、また幅広く皆さんが文化の家に足を運んでいただくことが会員の増加にもつながると頑張っています。本当は文化の家の企画にかかっているんですがね。

広中 高齢者が出かけてくれるような企画をしたいですね。特に家にいる男性に来てほしいです。難しい作品ではなく、来ていただけて楽しかったと思えば、文化の家も身近に感じて、ほかに目を向けることにつながるのではと思います。